

第 1 回富山県高付加価値旅行者向けホテル誘致検討委員会における主な意見と  
それに対する県の見解

日時：令和 5 年 7 月 7 日

場所：富山県民会館 706 号室

- 山が高くないと裾野が広がらない。地域の循環を考えると、山を高くして、裾野を広げていく必要がある。
  - A. 高付加価値旅行者の滞在の満足度を向上させる施策の実施は、シャワー効果により幅広い層への波及（提供価値の向上、地域のブランド価値の向上）が見込まれ、地域ファンの創出・拡大などにも貢献すると言われているので、県としてもまずは、高付加価値旅行者向け宿泊施設の誘致に取り組んでまいりたい。
  
- 完全な外資が来るだけではなく、既にある資産を磨くということはあっても良いのかなと思う。
  - A. 県では、本県と地元団体等で要望し制度化された観光庁の「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業」を活用し、令和 3 年度から 5 年度にかけて、宇奈月温泉や魚津市内の既存ホテルの高付加価値化と廃屋撤去を市町村とも連携して集中的に進めてきところ。引き続き、国庫補助等を活用して県内の既存ホテルの高付加価値化に努めてまいりたい。
  
- 箱形の大きなホテルが富山に向いているかと考えるとそれは違う気がする。富山の自然や文化に即した価値、富山ならではの価値を提供していくと、凄く良いのではないかなという気がしている。
  - A. 訪日外国人旅行者、特に高付加価値旅行者の志向や消費性向は多様化しており、宿泊施設についても世界的なホテルへの宿泊を好む方や、日本ならではの古民家ホテルへの宿泊を求める方など様々な方がいるので、それらの多様なニーズに応えることで、高付加価値旅行者を積極的に取り込みたい。
  
- ホテルと言うだけでなく、ビジネスパーソンの視点で言うと、国内の方が活用できるようなワーケーションの場も重要
  - A. 県ではコロナ禍において、ワーケーション施設の整備を進めてきたほか、県内で行う地域交流、地域貢献活動を含むワーケーションの実施に係る経費を一部助成する制度もあるので、引き続き周知に努めてまいりたい。
  
- 富山の近隣県には来ているのでその一部を取り込む余地はあるが、日帰り観光地化の傾向があるので違う戦略をとる必要がある。
  - A. 県では市町村と連携して、北陸ゲストイネーションキャンペーンに向けて、内川のナイトクルーズや雨晴海岸の早朝絶景タクシーなど宿泊を前提に特別な体験ができる観光素材の磨き上げを進めてきたほか、富山県西部観光社 水と匠においても伝統文化（瑞龍寺、越中いさみ太鼓など）を活かしたナイトタイムコンテンツ造成に取り組んでいるところであり、ナイトタイムエコノミーの充実に努めてまいりたい。